

ボランティア山形の活動

「ボランティア山形」とは、

1995年1月の阪神・淡路大震災時に米沢生活協同組合（現・生活クラブやまがた生活協同組合）の緊急支援策として、広く山形県民に呼びかけて組織した。特徴的なのは災害時になると活動を再開することや、活動メンバーはその都度募集することがあげられ、場合によっては、他のボランティア組織内に入って活動をすることもある。東日本大震災救援活動では従来の物資供給や人的支援に加えて、各ボランティア団体や大学、避難者、行政などの相談や政策提言などを行う中間支援組織的な役割が大きな活動になってきている。

＜ボランティア山形の東日本大震災の支援活動＞

- ・ 岩手、宮城、福島への生活支援物資の提供
- ・ 被災生産者の支援
- ・ 避難者の受け入れ（二次避難所と同等の機会提供）
- ・ 山形県復興支援会議への参加、政策提言
- ・ 避難者の集い、お茶のみ会「きっさ万世」の開催
- ・ 米沢市に避難している方々へ生活支援物資の提供
- ・ 避難者生活支援企画「10円バザー」の開催
- ・ チャリティコンサートなど各種イベントの開催
- ・ その他様々な活動を展開している。



上記写真は、11月20日（日）に開催された「10円バザー」の様子。当日は800名以上の方が来場され、毛布、お米、防寒着などの生活雑貨を提供することができた。

ボランティア山形連絡先： 〒992-0022 山形県米沢市花沢町 2695 番地の4
グループホーム 結いのき 内
TEL:0238-37-0960 FAX:0238-37-0961
E-mail:mirai21@trust.ocn.ne.jp

第51回

通常総代会議案書

日時：2012年6月2日（土）10:00～13:00

受付：9:30～ 託児：9:30～

場所：東京第一ホテル米沢

米沢市中央一丁目13番1号

電話(0238)24-0411

この議案書は総代会に持参してください

生活クラブやまがた
生活協同組合
議案書

（2）東日本大震災復興支援活動

①ボランティア山形を通して東日本大震災復興支援活動にあたりました

生活クラブやまがたの「NPO 結いのき」、「結いのきグループを支える会」、「ワーカーズ Man - ma」、「ボランティア山形」の提携をさらに強化して、被災地への復興支援活動を行ってきました。

生活クラブやまがたを基盤にした災害ボランティアの分野の多くは、生活協同組合の枠を超えて「ボランティア山形」によって行われています。組合員の枠を外し、心ある人に多く参加してもらうためです。また、災害などの緊急時には、組合員や非組合員の区別なく被災地の対応をする必要もあることなどから、「ボランティア山形」の活動を1995年の阪神・淡路大震災から始めました。

昨年の東日本大震災が起きてからは、当日から生活クラブやまがたと「ボランティア山形」は一体となって被災地への物資供給や無償配布、福島県からの避難者への米沢市営体育館の避難所運営を米沢市や米沢市社会福祉協議会と行いました。



またこの間、体育館の避難者を対象に支援した 3/15(火)米沢市役所に到着したグリーンコープ10トン車ほか、福島県や宮城県、岩手県への物資配布を積極的に行いました。物資は地元生産者を中心に多くの協力団体、個人によって提供されました。特に福岡市に本部を置く「グリーンコープ生活協同組合事業連合会」からは3月15日に第1弾として10トン車で食料品から生活用品までが届き、その後も定期的に届くようになりました。行政からは山形県、宮城県、米沢市からも物資提供があ

りました。

4月になると米沢市営体育館での避難者への対応から、仮設住宅代わりの雇用促進住宅や借上げ住宅などへ引っ越した避難者への訪問活動が、生活クラブやまがたの石田光子監事、澤田美恵子理事、「被災地 NGO 協働センター」の鈴木孝典さん（神戸大学生）らによって行われました。その後この訪問活動は週1回の「お茶会」へと発展していきました。



11/20(日)第5回10円バザー
開始前から避難者の行列ができる

「ボランティア山形」は「グループホーム結いのき」を本部に、生活クラブやまがたと「NPO 結いのき」が連携しながら、福島県郡山市にある「NPO ハートネットふくしま」や南相馬市の避難者有志らと連携して物資提供や相談窓口的な要素を持って活動をしてきました。

さらには「結いのきグループを支える会」のメンバーも加わり、6月から「10円バザー」を避難者の方を対象に原則的に月1回行ってきました。地元建設会社「後藤組」

様の協力で会場及び物資保管は米沢市窪田町の元羽黒電子工場を無料借用しての開催です。駐車場は工場向かいの「ハイメカ」様の協力によるものです。生活クラブやまがたの組合員を始め、全国のボランティア団体や環境団体などからの協力もあり、米やファンヒーターなど多くの生活物資の提供でこのバザーは行われています。

そして2011年度最終活動は震災一年後に行われた「3.11 東日本大震災復興祈念式典事業」でした。市内28団体の共同企画になりました。1,000人の参加者で追悼と希望ある未来を信じて歩くことを誓いました。

2011年3月11日の東日本大震災から今日までの山形県は、官民一体となつての活動になっていきました。被災地を支えるとともに避難されてきた14,000名余りの方々へのあたたかい支援活動をこれからも展開していきましょう。

②（以下）主な外部団体との協力体制と生活クラブやまがたの活動

i. シビックフォースのパートナーシップによる資金助成

「公益社団法人 Civic Force（緊急即応チーム・シビックフォース・代表理事大西健丞さん）」では、生活クラブやまがたの震災支援活動をいち早くリサーチして「被災地を支援するNPOパートナー協働事業」に認定され、990万円の活動費を受けることになりました。この資金が土台になって支援活動が一過性ではなく1年間の保障をもってあたることのできる大きなきっかけとなりました。

また、この会の凄いところは、活動費の支払いの帳尻を合わせるのではなく、活動費が本来の活動目的に合ったものか、どのように活動を展開しその効果はどうかを定期的に監査している点です。支援活動をしっかり展開している私たち生活クラブやまがたと「ボランティア山形」にはもってこ

いの会です。尚、他にもレスキューキッチン（大量にご飯を炊く機械）を貸与され、これは生活クラブやまがたから「NPO ハートネットふくしま（郡山市・代表吉田公男さん）」に又貸しをして、避難所や仮設住宅などのご飯出しに利用されています。

ii. アフリカへ毛布をおくる運動からの支援

東日本大震災後、生活クラブやまがたからの要請で「アフリカへ毛布をおくる運動」米沢事務局では、東北各地から毛布を集めました。要請の趣旨は津波の被害に遭われ死亡した方のご遺体を包むための毛布でした。しかし、3月14日以降は福島原発事故の避難者みなさんのために目的が変わっていきました。2,000枚を越す毛布を集めてくださった「アフリカへ毛布をおくる運動」米沢事務局のお蔭で、3月15日の米沢市営体育館の避難所開所では、この毛布が使用されました。

5月以降、避難所閉所になってからの使われなくなった毛布を「アンミン」様のご協力で低価で洗濯をしていただき、この冬に備えての備蓄にしました。この毛布は「10円バザー」で無料で配られました。この費用は「アフリカへ毛布をおくる運動」米沢事務局で拠出していただきました。（洗濯対象には静岡ボランティア協議会からの毛布も含まれています）

iii. 地域創造ネットワーク・ジャパンからの支援

前代表 浅野史郎さん（元宮城県知事）の病気治療をきっかけに解散を協議してきました。この間に東日本大震災が発生し、米沢市から生活クラブやまがたは避難所で使う大量の毛布を要請してきました。「アフリカへ毛布をおくる運動」米沢事務局からは2,000枚以上の毛布が提供されました。しかし、この数では足りないために、生活クラブやまがたと「NPO 結いのき」が会員である「地域創造ネットワーク・ジャパン」に毛布を要請しました。この事務局では緊急に会員らを中心に呼びかけ、「静岡県ボランティア協議会」から3回にわたり1万枚の毛布が提供されました。この毛布は米沢市以外にも「ボランティア山形」と「静岡県ボランティア協議会」、「静岡県リフトバス運用ボランティア連絡会議」が上山市、南陽市、長井市、川西町、高畠町の公設避難所に届けました。

この地域創造ネットワーク・ジャパンは、5月21日に正式に解散しました。尚、今後は社団法人「ユニバーサル社会創造センター」を設立して活動の仕切り直しをすることにしました。

iv. NPO「都市生活コミュニティセンター」からの支援と被災地 NGO 協働センターからの協力

NPO「都市生活コミュニティセンター」は、東日本大震災時には生活クラブやまがたに事務局長 福田和昭さんを派遣。また、震災4時間後に神戸の「被災地 NGO 協働センター（代表 村井雅清さん）」から吉椿雅道さんら5人を派遣するなど、福島県の避難者らの体育館運営やケアに対しても積極的に行ってくれました。

さらには組合員や理事らに足湯による傾聴ボランティアを伝授しました。福田さんは「グループホーム結いのき」を拠点にして、組合員や市民からの物資提供の窓口を作り、米沢市からの相談などについても対応しました。



吉椿 雅道さん

6月26日に行われた定例総会では、生活クラブやまがたを代表して井上肇特別顧問と「ボランティア山形」綾部誠理事が出席して基調講演を行い、「都市生活コミュニティセンター」への感謝の意を述べました。同時に東北へ視察や旅行に来ていただき、その目で現状を知っていただきたいこと、経済的にも貢献してもらいたいことなどを提案しました。その結果、同センター理事長の林佳子さんの提案で、2月11日から13日までの3日間、「生活クラブ生活協同組合都市生活」と「生協エスコープ大阪」の役職員14名の東北応援ツアーが実現しました。米沢市の観光と「グループホーム結いのき」見学、そして避難者との交流から石巻見学や気仙沼市大島での学習講演、岩手県での観光などの内容でした。ボランティア山形からは3名が同行しました。

v. 島原ボランティア協議会とみそ半の支援



松永 忠徳さん

元「島原ボランティア協議会」会長 宮本秀利さんと同会事務局長だった松永忠徳さんの二人は震災翌日から「ボランティア山形」と電話で連絡を取り合い、長崎県島原から指導に入っていました。

特に福島県からの避難者が米沢市来到と、体育館の運営についての指導はきめ細かく、「コミュニティが出来上がるまで隣同士の仕切りを作るな！泥棒を発生させるもとだ」、「借金の自動引き落としがある経営者はすぐに口座をゼロにさせろ。借金はいつでも返せるが今は生き延びることが先決だから」、「若夫婦がいたらラブホテルを紹介すること」など、20年前の島原普賢岳での避難所経験を基にした生きた指導でした。

松永さんは福岡にある「グリーンコープ連合会」にも連絡をして、物資の手配をするなどして10トン車を何回も米沢に運ぶことを指示されました。また、避難者に鰯（ブリ）を提供するなど相馬市や南相馬市の避難者に喜ばれる企画をしました。お二人は交互に米沢入りして避難所を中心に回って歩きました。宮城県や岩手県へも出かけて指導を行いました。

尚、松永忠徳さんは島原素麺で有名な「みそ半」の社長でもあり、生活クラブやまがたとは阪神淡路大震災のボランティアで知り合い、その後共同購入でも「みそ半」の各種麺は、定期的に取り扱っています。もちろん生活クラブ連合会とも提携しています。

vi. 米沢市倫理法人会からの資金と食料支援

「米沢市倫理法人会（会長相田晃輔氏）」会員のみなさんから資金の援助を3回にわたっていただきました。また、個別には「賜の湯」様より売り上げの一部からの活動資金や「木村醤油」様からも醤油や味噌を大量に提供いただきました。これらの食料は「NPO ハートネットふくしま」を通じて仮設住宅への食事提供として使用されました。また、石巻の住宅での避難者へも届けられました。

vii. NPO 結いのきの物資提供、日本財団の資金協力、結いのきグループを支える会の資金提供

「NPO 結いのき」でも支援に乗り出しました。生活クラブやまがたを母体に生まれた「NPO 結いのき」ですが、福島県内への物資提供を担当し、お店が開いていない時期の南相馬市や「NPO

「ハートネットふくしま」などを中心に活動を展開しました。尚、この活動資金の内 99 万円は「日本財団」から提供されました。

「結いのきグループを支える会」からの資金提供がありました。12 月 31 日から元旦にかけて行われた石巻市「松巖寺（しょうがんじ）」の要請で行った除夜の鐘での振舞い用の芋煮とお蕎麦の材料費の支援を受けました。

viii. 地元生産者からの支援

共同購入生産者からの物資の提供が相次いでありました。ほとんどを福島県、宮城県、岩手県に提供しました。また、米沢市営体育館の避難者への食事材料の提供も積極的に行いました。

＜物資提供生産者のみなさん＞



4/3(日)米沢市営体育館で餅つき

佐野水産 花角味噌醸造 ミルクファーム蔵王 山形県酪農協同組合 しらたかノラの会
新平食品 鯉の宮坂 米沢郷牧場 山形おきたま産直センター 松浦商店 手塚隆さん
島崎真吉さん トーエー食品 銘菓の錦屋、アーダ・ブレーンなど。

ix. 組合員からの資金と物資の提供

震災の翌日から、組合員からは物資の提供と義援金や活動資金の提供の申出がありました。このお陰で提携生産者へのお見舞金をはじめ、被災地への物資購入や被災地への物資提供とその活動資金に有効に使わせていただきました。

公的な避難所では物資は余る状態が続きましたが、私たちは「路上での物資提供」や「近所が集まっつの自主避難所」への供給を続けました。こういうところでは、5 月半ば頃までは物資不足が続きました。また、原発事故以来店が閉まったままの南相馬市内に住む方たちからのお願いもあり、数回にわたって南相馬市へ物資を提供しました。気仙沼市大島でも 4 月中旬まではフェリーも不通の状態だったために、フェリー再開と同時に物資を提供しました。「10 円バザー」では新品の石油ファンヒーターも多く組合員から提供がありました。どなたも貯金を取り崩しての提供でした。

x. 環境団体や産直団体からも支援。被災地への物資提供と 10 円バザーを支える団体たち

私たちの活動の中で特徴的なことのひとつに被災地や避難者への要望にできるだけタイムリーに応えることがあります。アトピー性の子どもたちへの非アレルギー食品を準備することや、特に厳しい冬を迎える上で、いち早く給湯器や暖房器具の手配を行いました。その物資の多くは組合員や各ボランティア団体、産直団体から積極的に提供がありました。行政が準備している間にも器具を揃えて、その後行政と一緒に支給にあたることが多かったです。

✦ 産直団体の「株式会社らでいっしゅばーや（代表取締役社長緒方大助さん）」では、震災後から物資の提供が定期的に行われました。また、中古のトラックの寄付がありました。このトラックは「10 円バザー」の物資運びや生活クラブやまがたの臨時車として使用させていただいています。

- ↓ 「NPO ネットワーク地球村（代表高木善之さん）」からも支援金をいただき、情報紙「ボラよね（ボランティア米沢・編集長伊藤範さん）」の編集資金に寄付しました。さらには米 55 俵をいただくほか、物資提供も定期的にいただき、主に福島からの避難者への「10 円バザー」に提供させていただいています。
- ↓ 「認定 NPO アトピッツ地球の子ネットワーク（代表吉澤淳さん）」からは、非アレルギー食品や庄内米（庄内協同ファーム産）を毎月 300kg 提供いただくほかにも、活動支援金の寄付をいただいています。
- ↓ 「共生地域創造財団設立準備会」ではオムツや古着、毛布の提供が定期的に行われています。
- ↓ 「ふんばろう東日本支援プロジェクト（代表西篠剛央さん）」からは靴、ファンヒーター、電気製品、ガスコンロなどの支援があり、避難者のアパートなどで大いに役立っています。
- ↓ 「復興市場（代表山崎太朗さん）」からも給湯器、電気毛布、オムツなどの提供があり、避難者に喜ばれています。
- ↓ 「NPO 法人水俣病協働センター」のリサイクル石けん協会の谷洋一さんからは、トラックの無料貸出し、宮崎県新燃岳被災地農家の「灰かぶり野菜」やたくさんの野菜と果物を水俣市から運んでくれました。
- ↓ 「新日本プロレス株式会社（代表取締役社長菅林直樹さん）」からはトレーナーなどの衣料品 1000 点を提供していただきました。

xi. 他団体への支援で間接的な活動をフォローしてもらう

静岡県浜松市で外国人出稼ぎ労働者を対象にして日本語学校の準備をしていた米沢出身の I さんから 50 万円を寄付していただきました。外国人留学生の東北復興ボランティア活動に対して資金相談があった「NPO アジア・コミュニティ・センター 21（代表理事伊藤道雄さん）」に対して、この寄付金を生活クラブやまがたが間に入って差し上げることになり、国際貢献と同時に災害ボランティア教育活動としても両氏・団体から感謝をされました。福島県への支援として「NPO ハートネットふくしま」の存在は大きく、支援物資配給を生活クラブやまがたに代わって避難所や仮設住宅などで行ってもらいました。

（3）行政や自治体への提言や協力（東日本大震災被災地への復興支援）

「東日本大震災復興支援山形県会議」委員に生活クラブやまがた井上肇特別顧問（当時理事長）が就任して協同による被災地復興を提案してきました。

特に被災地の瓦礫処理の協力を県あげて実現できないか、避難者への冬の対応の遅さを指摘し、雪下ろしや除雪を県としての協力をお願いしました。瓦礫については積極的に受け入れを企画しましたが、後に瓦礫のセシウムなど放射線に対する不安が県庁に寄せられて中断することになりました。



2012/4/21 津波で流された車（石巻市）

活動を基本として学んだことから山形県や各自治体、政府、政党、そしてアメリカなどへも提言と提案をしていきました。その多くは山形県知事と副知事に集中しましたが、被災地や避難者から学んだ点を率直に文書で述べることで、直接話し合う時間をとっていただくことを行いました。同時に島原普賢岳の被災地でのボランティア経験者や阪神淡路大震災時に行政におられた担当者には、

副知事に面会をして当時の教訓や資料をもってお話し合いをしました。その結果多くの提案が実現することができました。被災地や避難者からも感謝を述べられています。

米沢市との災害時協定書に基づく活動についての反省と評価については、正式な会議をしていないので次年度には行うように市にもお願いをしていきます。

「市民の力で東北復興」出版記念フォーラム＆パーティーを開催



2012年1月15日に全国出版された、「ボランティア山形著（2012）『市民の力で東北復興』ほんの木」の出版記念フォーラム＆パーティーが、株式会社ほんの木が主催する形で、2月23日（木）に「ちよだプラットフォーム・スクエア（東京都千代田区）」において開催されました。

このフォーラムでは、「災害ボランティアのあり方と今後の市民の役割」をテーマに、パネルディスカッション形式でボランティア山形の活動内容を交えた形で議論を行いました。ボランティア山形からは、代表理事井上肇、副代表丸山弘志、事務局長新関寧、理事綾部誠の4名が出席しました。

ディスカッションでは、編集長である柴田敬三氏の挨拶、紹介、問題提起に続き、これまでの活動の全容、米沢市の避難所における支援活動、被災地への救援支援活動、今後の災害ボランティアのあり方、本の収録後（2011年7月以降）の活動という点について議論・発表を行いました。会場には、NGO関係者、大学教員、行政関係者、一般市民など、100名を超える方々が詰めかけました。



ボランティア山形 井上肇代表理事（中央）

(第三種郵便物認可)

【新聞定価(消費税込み)1ヵ月3,007円、1部130円】

被災3県に支援物資提供 米沢への避難者サポート

東日本大震災の被災者や福島第1原発事故の避難者を支えようと米沢市で結成された「ボランティア山形」が精力的な活動を続けている。岩手、宮城、福島の被災3県への支援を続けながら、米沢に約4000人いる福島からの避難者を支える両面作戦を展開。米沢市民や阪神大震災で培った県外の人脈に支えられ、被災者、避難者の間で今も存在感を高めている。

ボランティア山形は1の柱の一つ。同生協の生905年の阪神大震災の産者や消費者とのつながり、生活クラブやまがたりを生かして集まった食生活協同組合(当時は米品や日用品を、一部を除く)が山形県民に呼び掛けて発足した草の根の支援チーム。東日本大震災が発生して間もない昨年3月半ば、同生協が米沢市の社会福祉協議会や青年会議所などと連携して再結成した。

ことし1月8日に米沢市内で開いた6回目の「10円バザー」は、活動者同士のお茶のみ会も通

ボランティア山形両面作戦

「阪神」契機に発足 人脈生きる 県外の仲間も集結

1回開くなど、避難者の米沢暮らしをあの手のこの手でサポートしている。同生協特別顧問でボランティア山形の代表を務める井上肇さん(58)は「たくさん米沢市民が、多様な形で支援に携わってくれている」と、市民の協力に感謝する。

生協など全国のネットワークの後押しで被災地に支援物資を送り続けるほか、被災地の農産物を買収する取り組みも展開。岩手で被災者支援に当たる「遠野まごころネット」の遠野市などと並び、米沢は被災地支援の一大拠点となっている。

市民とともに、大きな戦力になっているのが、阪神大震災で全国にボランティア人脈を広げた井

上さんを頼りに集まってきた多くの仲間たちだ。副代表として活動を支援する。阪神大震災を神戸で経験した「米沢の皆さんへ」のメンバー、ボランティア経験豊富な丸山弘志さん(50)もその一人。横浜市に家族を置いて昨年3月



福島からの避難者を支えようと開いている「10円バザー」。毎回多くの来場者でにぎわう

米沢の避難所 県外からも災害ボランティア

経験を力に

東日本大震災で被災した福島県からの被災者を受け入れている米沢市。避難所開設以降、災害時のボランティアの経験者が県外から駆け付けて市民の活動を支えている。避難生活の長期化に配慮した心のケアのほか、活動の基盤となるボランティア組織を立ち上げ、地元ボランティアの育成にも取り組んでいる。



避難している子どもたちのケアについて意見を交わす奥村晃良さん(左)と東端千夏さん。地元の有志たちがアイデアを出し合い、行動している。米沢市営体育館

指揮一本化へ 共同で新組織

「指揮系統を一本化して効率的な支援に取り組み」。米沢市営体育館など市内の避難所で活動する複数のボランティア団体などが20日、共同で新組織「ボランティア米沢」を立ち上げた。事務局長の丸山弘志さん(49)は「横浜市、会社代表取締役」は「阪神・淡路大震災に被災した経験からボランティア活動に取り組んでいる。当時知り合った生活クラブ」。

地元の人材も育成



足湯で避難者の体と心をほぐす。触れ合いの中から少しずつ対話が生まれる。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「日本人が経験したことのない事態。地元の人たちが知恵を出し合い力をつけていく必要がある」と丸山さん。県外から参加しているボランティアが長期にわたる滞在で疲れているのではない。自分たちは行政などとの調整役として動き、スタッフをまとめる統括には川西町から参加している奥村晃良さん(27)を起用した。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「ボランティアの経験はなかった」という奥村さん。イベント運営の経験を生かしてスタッフをまとめている。活動内容を大きく▽生活支援▽支援物資の管理▽支援物資の供給の三つに分類。大人のケア、子どものケアなど活動別の班をつくり、交代制のリーダーを配置した。「考え、率先して動ける人にリーダーになってもらい、さらに次のリーダーを育てる」という考えだ。

「に昨年12月23日以来の0」と思った」と供述している